



アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム (為替ヘッジあり) アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム (為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／株式

第2期 (決算日2023年8月7日)

作成対象期間 (2023年2月8日～2023年8月7日)

<為替ヘッジあり>

第2期末 (2023年8月7日)	
基準価額	9,344円
純資産総額	341百万円
第2期	
騰落率	△ 2.2%
分配金 (税込み) 合計	0円

<為替ヘッジなし>

第2期末 (2023年8月7日)	
基準価額	10,212円
純資産総額	151百万円
第2期	
騰落率	7.3%
分配金 (税込み) 合計	0円

(注) 騰落率は分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム (為替ヘッジあり)」「アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム (為替ヘッジなし)」は第2期の決算を行いました。

当該ファンドは、主要投資対象であるルクセンブルグ籍の円建外国投資信託受益証券への投資を通じて、日本を含む世界の株式等に投資し、公表されたM&A案件等において、買収の公表と成立との間で発生する価格差 (スプレッド) を収益の源泉とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。当作成対象期間もこれに沿った運用を行ってまいりました。

ここに、当該ファンドの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

アライアンス・バーンスタイン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番6号 日比谷パークフロント

お問合せ先 **お客様窓口**

電話番号 **03-5962-9687** (受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

ホームページアドレス <https://www.alliancebernstein.co.jp>

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書 (全体版) に記載しております。

○運用報告書 (全体版) は、受益者の方からのご請求により交付されます。書面での交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

○当ファンドは、信託約款において運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書 (全体版) は、アライアンス・バーンスタイン株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

<「運用報告書 (全体版)」の閲覧・ダウンロード方法>

上記ホームページアドレスにアクセス → 「国内投資信託 基準価額一覧」を選択 → 「基準価額一覧」を選択 → 表内の当ファンド名を選択 → 「運用報告書 (全体版)」のリンクを選択

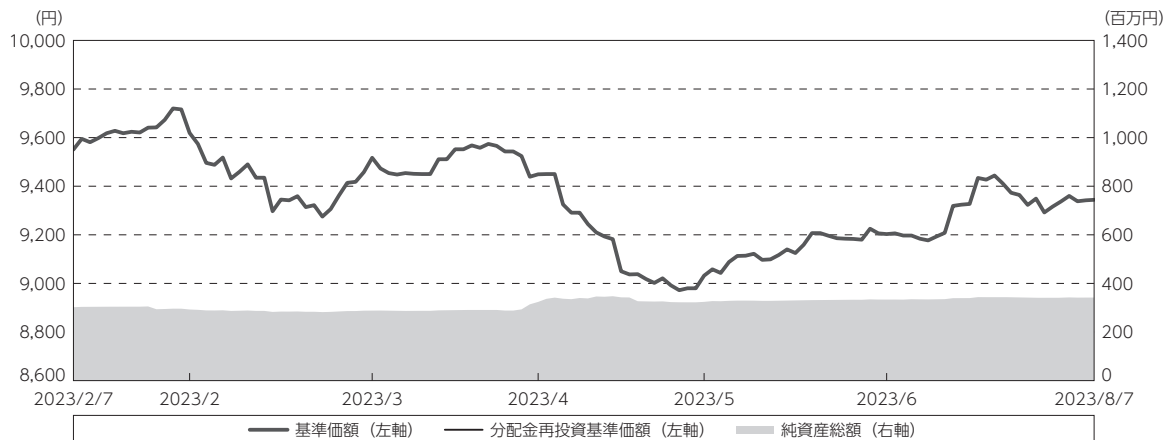
アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム (為替ヘッジあり)

運用経過

アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム (為替ヘッジあり) (以下「当ファンド」ということがあります。)の運用状況をご報告いたします。

期中の基準価額等の推移

(2023年2月8日～2023年8月7日)



期首：9,551円

期末：9,344円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 2.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2023年2月7日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額等の推移

当ファンドの基準価額(分配金(税込み)再投資)は前期末比で下落となりました。

○基準価額の主な変動要因

ルクセンブルグ籍円建外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ—マージャー・アービトラージクラスS1」JPY Hシェアーズ(為替ヘッジあり)への投資を通じて運用を行います。当期における基準価額の主な変動要因は、次のとおりです。

上昇要因：企業の合併および買収(M&A)案件完了

下落要因：M&A案件破談

為替のヘッジコスト

1万口当たりの費用明細

(2023年2月8日～2023年8月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	47 円	0.506 %	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(3)	(0.027)	委託した資金の運用、基準価額の算出等の対価
(販 売 会 社)	(43)	(0.464)	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.015)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	3	0.036	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(そ の 他)	(3)	(0.035)	その他は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受益権の管理事務に係る費用、計理業務関係費用、印刷業者等に支払う法定書類の作成・印刷・交付および届出に係る費用等
合 計	50	0.542	
期中の平均基準価額は、9,356円です。			

(注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

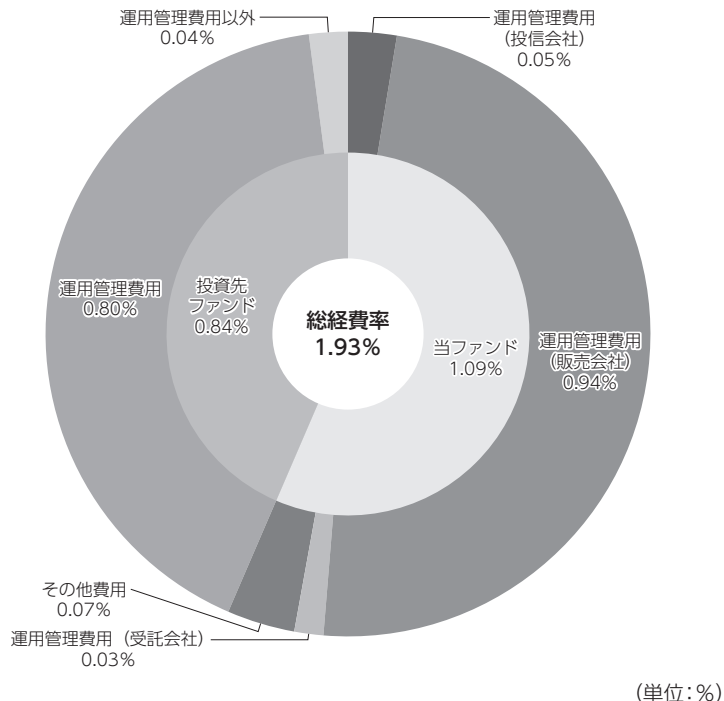
(注) 組入投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.93%です。



総経費率(①+②+③)	1.93
①当ファンドの費用の比率	1.09
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.80
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.04

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年8月7日～2023年8月7日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの当初設定日は2022年7月22日です。

	2022年7月22日 設定日	2023年8月7日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,344
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 6.6
純資産総額 (百万円)	1	341

(注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

(注) 設定日の基準価額は当初設定時の金額、純資産総額は当初設定元本総額を表示しており、2023年8月7日の騰落率は当初設定日との比較です。

●ベンチマークおよび参考指数に関して

当ファンドの運用方針に類似した適切な指標が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境

(2023年2月8日～2023年8月7日)

【世界の株式市場】

当期の世界の株式市場は、前期末比で上昇しました。

期初から2023年3月半ばにかけては、インフレの高止まりを背景とした欧米の利上げ長期化懸念のほか、米国の銀行の経営破綻やスイス金融大手の株価急落を受けた金融不安から下落しました。しかし、3月半ば以降は、金融不安が和らぎ反発しました。その後期末にかけては、世界的な景気後退懸念、米国での中堅銀行の経営破綻や政府の債務上限問題への警戒感などが重石となる場面があったものの、インフレ鈍化傾向を背景に米国の利上げサイクルの終了観測が高まったことや、好調な企業決算などを好感し、おおむね上昇基調で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2023年2月8日～2023年8月7日)

【当ファンド】

当ファンドは、ルクセンブルグ籍円建外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J JPY Hシェアーズ (為替ヘッジあり)」を主要投資対象とし、投資割合は高位を維持しました。

また、「アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスS12シェアーズ (米ドル建て)」にも投資を行いました。

【アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J JPY Hシェアーズ (為替ヘッジあり)】

日本を含む世界の株式等を主要投資対象とし、合併および合併関連活動からのリスク調整後のリターンを通じて、投資元本の長期的な成長を目指します。原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、円に対する米ドルの為替変動リスクの低減を図ります。

運用にあたっては、一般的にマージャー・アービトラージとして知られている戦略を使用し、買収の公表と成立との間で発生する価格差(スプレッド)を捉えるべく、買収が成立する可能性が最も高いと判断する案件への投資に焦点を合わせました。

【アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスS12シェアーズ (米ドル建て)】

主として世界の投資適格債に投資することにより、高水準のトータル・リターンを獲得を目指します。米ドル建て以外のポジションは、為替変動リスクを軽減するために、米ドル建てとなるよう為替ヘッジを行うこともあります。

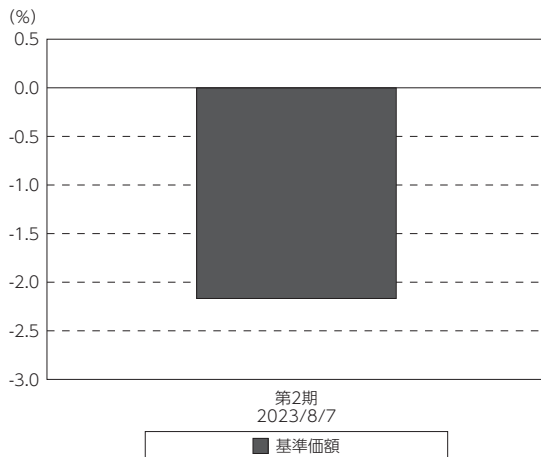
運用にあたっては、当期も引き続き、計量分析とファンダメンタル分析に基づき、魅力的であると判断した債券セクターや銘柄への投資を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2023年2月8日～2023年8月7日）

当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

基準価額（騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

（2023年2月8日～2023年8月7日）

当期の収益分配は、長期的な信託財産の成長を目指す観点から、見送ることとしました。なお、収益分配に充てなかった利益については、信託財産内に留保し、「運用の基本方針」に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第2期
	2023年2月8日～ 2023年8月7日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	—

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の当期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数以下切り捨てで算出しているため合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

（注）上記表は、経費控除後の数値です。

今後の運用方針

【当ファンド】

ルクセンブルグ籍円建外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J JPY Hシェアーズ (為替ヘッジあり)」を主要投資対象とし、投資割合は高位を維持します。

【アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J JPY Hシェアーズ (為替ヘッジあり)】

2023年上半期のM&A活動は、インフレや金利上昇、景気後退懸念、資金調達の難しさなどを背景に縮小傾向でした。米連邦準備理事会(FRB)がタカ派姿勢を維持するなか、依然として経営者がM&Aの成功に対して確信を持ちづらい環境となっています。一方、企業にはサプライチェーン再編、テクノロジー強化、地域分散のニーズなどが存在しています。また、米ドル高を背景としたクロスボーダーのM&Aニーズが蓄積されており、プライベート・エクイティのドライパウダー(手元資金)が歴史的な高水準であることなど、M&A活動が増加する要因は既に存在しています。今後、経済・金融市場の先行き不透明感が徐々に払拭されれば、M&A活動が増加するとみています。

引き続き、主として合併および合併関連活動からのリスク調整後のリターンを通じて、投資元本の長期的な成長を目指します。

【アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラス S1 2シェアーズ (米ドル建て)】

引き続き、主として世界の投資適格債に投資することにより、高水準のトータル・リターンの獲得を目指します。

※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

お知らせ

2023年2月8日以降において、当ファンドの信託約款について、以下に掲げる事項を内容とする変更を行いました。

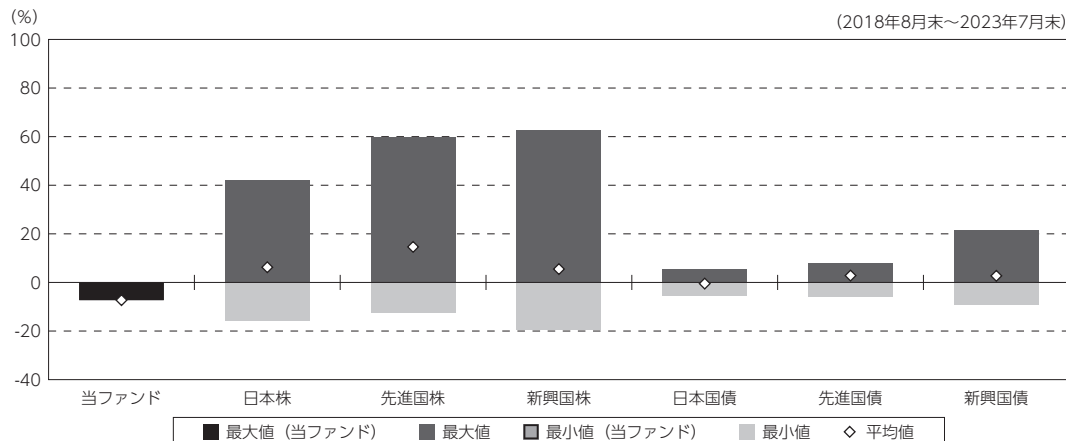
当ファンドの主要投資対象ファンドであるルクセンブルグ籍円建外国投資信託のプロスペクタスにおいて、運用態度に係る軽微な文言の変更が行われました。この変更に伴い、当ファンドの運用の基本方針に所要の変更を行いました。（変更日：2023年4月28日）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2027年8月9日まで（信託設定日：2022年7月22日）	
運用方針	日本を含む世界各国の株式等を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム（為替ヘッジあり）	ルクセンブルグ籍円建外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1」JPY Hシェアーズ（為替ヘッジあり）」を主要投資対象とします。このほか、ルクセンブルグ籍外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスS1 2シェアーズ（米ドル建て）」にも投資を行います。なお、短期有価証券および短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1」JPY Hシェアーズ（為替ヘッジあり）	日本を含む世界の株式等
	アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスS1 2シェアーズ（米ドル建て）	多様な通貨建ての投資適格債券への投資を行います。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主要投資対象ファンドへの投資を通じて、日本を含む世界の株式等に投資します。 ・公表されたM&A（企業の合併および買収）案件等において、買収の公表と成立との間で発生する価格差（スプレッド）を収益の源泉とします。投資に当たっては、一般的にマージャー・アービトラージとして知られている戦略を使用します。ルールベースのアプローチからリスクプレミアムを体系的に把握し、成立する可能性が最も高い案件への投資に焦点を合わせます。 ・主要投資対象ファンドの運用は、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが行います。 ※アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。 ・当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。 ・主要投資対象ファンドにおいて、原則として主要投資対象ファンドの純資産総額を米ドル換算した額と同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、円に対する米ドルの為替変動リスクの軽減を図ります。 	
分配方針	<p>原則として、毎決算時（毎年2月7日および8月7日。休業日の場合は翌営業日）に、以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わない場合もあります。 ・留保益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用を行います。 	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	△ 7.3	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△ 7.3	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	△ 7.3	6.3	14.6	5.5	△ 0.5	2.8	2.7

- (注) 上記グラフは、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、2018年8月～2023年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- (注) 当ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づき計算した騰落率ですので、実際の基準価額に基づき計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- (注) 当ファンドにつきましては、2023年7月以降の年間騰落率を用いています。

《各資産クラスの指数》

- 日本株……TOPIX (東証株価指数、配当込み)
- 先進国株……MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)
- 新興国株……MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
- 日本国債……NOMURA - BPI 国債
- 先進国債……FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
- 新興国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P24の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年8月7日現在)

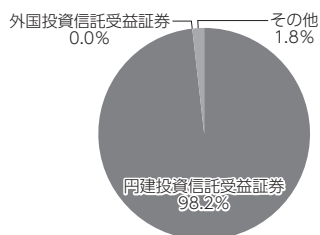
○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
	%
アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅡ-マージャー・アピトラージ クラスSIJJPY Hシェアズ(為替ヘッジあり)	98.2
アライアンス・バーンスタイン・ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスSI2シェアズ(米ドル建て)	0.0
組入銘柄数	2銘柄

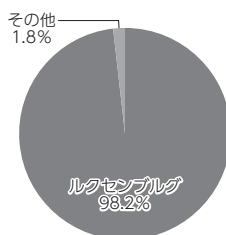
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

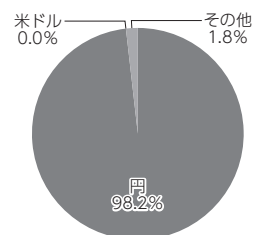
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

項目	第2期末
	2023年8月7日
純資産総額	341,805,355円
受益権総口数	365,786,931口
1万口当たり基準価額	9,344円

(注) 期中における追加設定元本額は96,068,596円、同一部解約元本額は46,554,124円です。

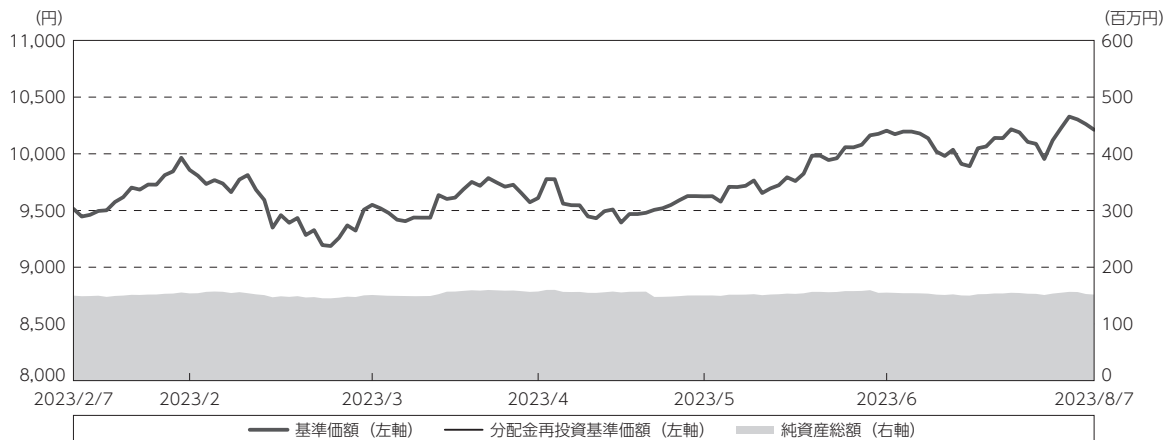
アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム (為替ヘッジなし)

運用経過

アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム (為替ヘッジなし) (以下「当ファンド」ということがあります。)の運用状況をご報告いたします。

期中の基準価額等の推移

(2023年2月8日～2023年8月7日)



期首：9,515円

期末：10,212円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：7.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2023年2月7日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額等の推移

当ファンドの基準価額(分配金(税込み)再投資)は前期末比で上昇となりました。

○基準価額の主な変動要因

ルクセンブルグ籍円建外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ—マージャー・アービトラージクラスS1」シェアーズ(為替ヘッジなし)への投資を通じて運用を行います。当期における基準価額の主な変動要因は、次のとおりです。

上昇要因：企業の合併および買収(M&A)案件完了
円安米ドル高の進行

下落要因：M&A案件破談

1万口当たりの費用明細

(2023年2月8日～2023年8月7日)

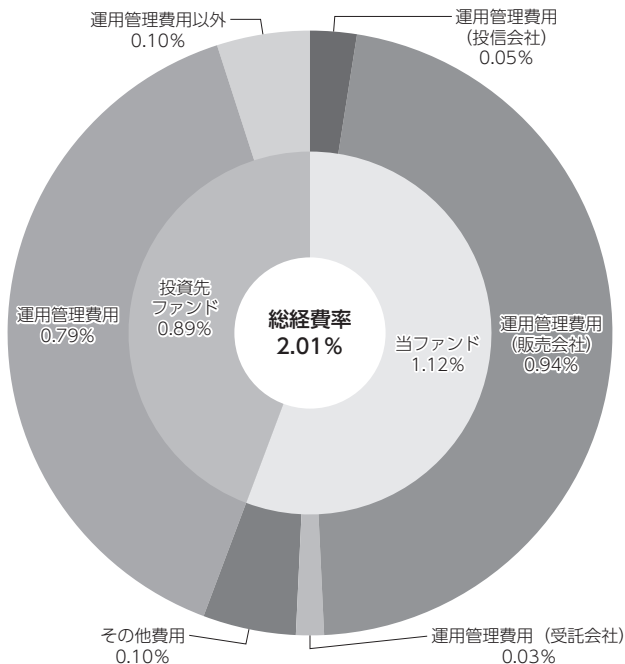
項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	50 (3) (46) (1)	0.506 (0.027) (0.464) (0.015)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (そ の 他)	5 (5)	0.050 (0.049)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受益権の管理事務に係る費用、計理業務関係費用、印刷業者等に支払う法定書類の作成・印刷・交付および届出に係る費用等
合 計	55	0.556	
期中の平均基準価額は、9,827円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。
- (注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。
- (注) 組入投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.01%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	2.01
①当ファンドの費用の比率	1.12
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.79
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.10

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年8月7日～2023年8月7日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの当初設定日は2022年7月22日です。

	2022年7月22日 設定日	2023年8月7日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,212
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.1
純資産総額 (百万円)	1	151

(注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

(注) 設定日の基準価額は当初設定時の金額、純資産総額は当初設定元本総額を表示しており、2023年8月7日の騰落率は当初設定日との比較です。

●ベンチマークおよび参考指数に関して

当ファンドの運用方針に類似した適切な指標が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境

(2023年2月8日～2023年8月7日)

【世界の株式市場】

当期の世界の株式市場は、前期末比で上昇しました。

期初から2023年3月半ばにかけては、インフレの高止まりを背景とした欧米の利上げ長期化懸念のほか、米国の銀行の経営破綻やスイス金融大手の株価急落を受けた金融不安から下落しました。しかし、3月半ば以降は、金融不安が和らぎ反発しました。その後期末にかけては、世界的な景気後退懸念、米国での中堅銀行の経営破綻や政府の債務上限問題への警戒感などが重石となる場面があったものの、インフレ鈍化傾向を背景に米国の利上げサイクルの終了観測が高まったことや、好調な企業決算などを好感し、おおむね上昇基調で推移しました。

【為替市場】

前期末比で円安米ドル高となりました。

期初から2023年7月初めにかけては、世界的な金融不安から円が買われる場面もあったものの、米国長期金利の上昇や日本銀行(日銀)による緩和政策の維持を背景とする日米の金利差拡大から、円安米ドル高が進みました。その後は、日銀による為替介入への警戒感やインフレ鈍化観測を背景とする米国長期金利の低下などから円高米ドル安に転じたものの、7月半ば以降期末にかけては、再び円安米ドル高基調となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2023年2月8日～2023年8月7日)

【当ファンド】

当ファンドは、ルクセンブルグ籍円建外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J シェアーズ (為替ヘッジなし)」を主要投資対象とし、投資割合は高位を維持しました。

また、「アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラス S1 2 シェアーズ (米ドル建て)」にも投資を行いました。

【アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J シェアーズ (為替ヘッジなし)】

日本を含む世界の株式等を主要投資対象とし、合併および合併関連活動からのリスク調整後のリターンを通じて、投資元本の長期的な成長を目指します。原則として対円での為替ヘッジを行いません。

運用にあたっては、一般的にマージャー・アービトラージとして知られている戦略を使用し、買収の公表と成立との間で発生する価格差(スプレッド)を捉えるべく、買収が成立する可能性が最も高いと判断する案件への投資に焦点を合わせました。

【アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラス S1 2 シェアーズ (米ドル建て)】

主として世界の投資適格債に投資することにより、高水準のトータル・リターンの獲得を目指します。

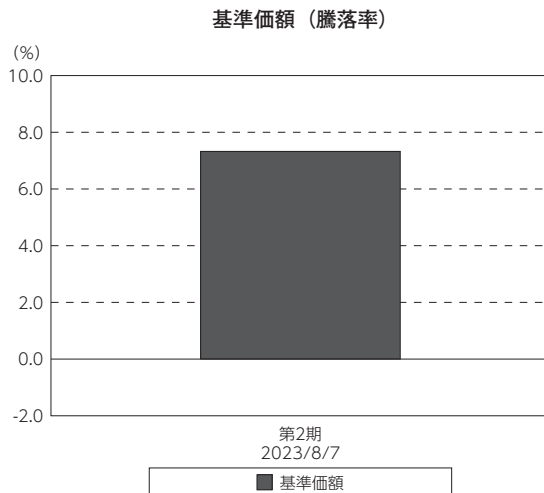
米ドル建て以外のポジションは、為替変動リスクを軽減するために、米ドル建てとなるよう為替ヘッジを行うこともあります。

運用にあたっては、当期も引き続き、計量分析とファンダメンタル分析に基づき、魅力的であると判断した債券セクターや銘柄への投資を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2023年2月8日～2023年8月7日）

当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設けておりません。



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

（2023年2月8日～2023年8月7日）

当期の収益分配は、長期的な信託財産の成長を目指す観点から、見送ることとしました。なお、収益分配に充てなかった利益については、信託財産内に留保し、「運用の基本方針」に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第2期
	2023年2月8日～ 2023年8月7日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	211

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の当期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数以下切り捨てで算出しているため合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

（注）上記表は、経費控除後の数値です。

今後の運用方針

【当ファンド】

ルクセンブルグ籍円建外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J シェアーズ (為替ヘッジなし)」を主要投資対象とし、投資割合は高位を維持します。

【アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J シェアーズ (為替ヘッジなし)】

2023年上半期のM&A活動は、インフレや金利上昇、景気後退懸念、資金調達の難しさなどを背景に縮小傾向でした。米連邦準備理事会(FRB)がタカ派姿勢を維持するなか、依然として経営者がM&Aの成功に対して確信を持ちづらい環境となっています。一方、企業にはサプライチェーン再編、テクノロジー強化、地域分散のニーズなどが存在しています。また、米ドル高を背景としたクロスボーダーのM&Aニーズが蓄積されており、プライベート・エクイティのドライパウダー(手元資金)が歴史的な高水準であることなど、M&A活動が増加する要因は既に存在しています。今後、経済・金融市場の先行き不透明感が徐々に払拭されれば、M&A活動が増加するとみています。

引き続き、主として合併および合併関連活動からのリスク調整後のリターンを通じて、投資元本の長期的な成長を目指します。

【アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラス S12 シェアーズ (米ドル建て)】

引き続き、主として世界の投資適格債に投資することにより、高水準のトータル・リターンの獲得を目指します。

※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

お知らせ

2023年2月8日以降において、当ファンドの信託約款について、以下に掲げる事項を内容とする変更を行いました。

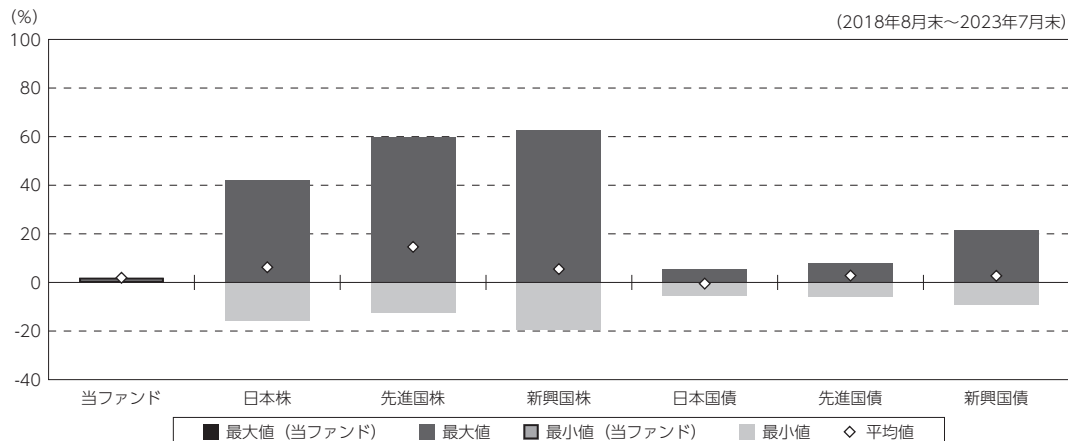
当ファンドの主要投資対象ファンドであるルクセンブルグ籍円建外国投資信託のプロスペクタスにおいて、運用態度に係る軽微な文言の変更が行われました。この変更に伴い、当ファンドの運用の基本方針に所要の変更を行いました。(変更日：2023年4月28日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2027年8月9日まで (信託設定日：2022年7月22日)	
運用方針	日本を含む世界各国の株式等を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	アライアンス・バーンスタイン・M&Aプレミアム(為替ヘッジなし)	ルクセンブルグ籍円建外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1」シェアーズ (為替ヘッジなし)を主要投資対象とします。このほか、ルクセンブルグ籍外国投資信託受益証券「アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスS12シェアーズ (米ドル建て)」にも投資を行います。なお、短期有価証券および短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS11シェアーズ (為替ヘッジなし)	日本を含む世界の株式等
	アライアンス・バーンスタイン－ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスS12シェアーズ (米ドル建て)	多様な通貨建ての投資適格債券への投資を行います。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要投資対象ファンドへの投資を通じて、日本を含む世界の株式等に投資します。 ・ 公表されたM&A (企業の合併および買収) 案件等において、買収の公表と成立との間で発生する価格差 (スプレッド) を収益の源泉とします。投資に当たっては、一般的にマージャー・アービトラージとして知られている戦略を使用します。ルールベースのアプローチからリスクプレミアムを体系的に把握し、成立する可能性が最も高い案件への投資に焦点を合わせます。 ・ 主要投資対象ファンドの運用は、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが行います。 ※アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。 ・ 当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。 ・ 実質的な組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。 	
分配方針	<p>原則として、毎決算時 (毎年2月7日および8月7日。休業日の場合は翌営業日) に、以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額とします。 ・ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わない場合もあります。 ・ 留保益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用を行います。 	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	1.9	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	1.9	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	1.9	6.3	14.6	5.5	△ 0.5	2.8	2.7

- (注) 上記グラフは、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、2018年8月～2023年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- (注) 当ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づき計算した騰落率ですので、実際の基準価額に基づき計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- (注) 当ファンドにつきましては、2023年7月以降の年間騰落率を用いています。

《各資産クラスの指数》

- 日本株…… TOPIX (東証株価指数、配当込み)
- 先進国株…… MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)
- 新興国株…… MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
- 日本国債…… NOMURA - BPI 国債
- 先進国債…… FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
- 新興国債…… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P24の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年8月7日現在)

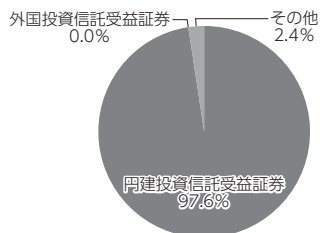
○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
	%
アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅡ-マージャー-アービトラージ クラスS1J シェアーズ(為替ヘッジなし)	97.6
アライアンス・バーンスタイン・ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスS12 シェアーズ(米ドル建て)	0.0
組入銘柄数	2銘柄

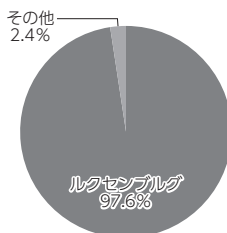
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

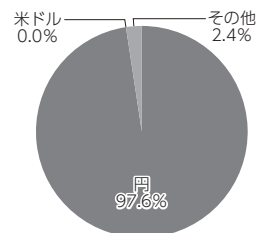
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

項目	第2期末
	2023年8月7日
純資産総額	151,705,237円
受益権総口数	148,560,025口
1万口当たり基準価額	10,212円

(注) 期中における追加設定元本額は17,497,328円、同一部解約元本額は26,489,732円です。

組入上位ファンドの概要

アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ－マージャー・アービトラージ クラスS1J JPY Hシェアーズ（為替ヘッジあり）

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年7月22日～2022年12月31日)

1万口当たりの費用明細に該当する情報を取得できないため、掲載しておりません。

以下は、「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅢ マージャー・アービトラージ」全体の内容です。

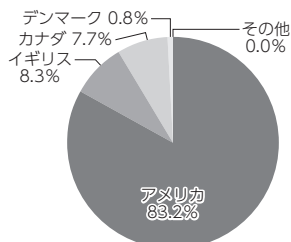
【組入上位5ポジション】

買収対象企業	国	セクター	支払方法	組入比率	買収元企業	国
1 Umpqua Holdings Corp.	アメリカ	金融	株式交換取引	5.9%	Columbia Banking System Inc.	アメリカ
2 Shaw Communications	カナダ	コミュニケーション・サービス	現金取引	5.8%	Rogers Communications	カナダ
3 VMware Inc.	アメリカ	情報技術	現金取引および株式交換取引	5.7%	Broadcom Inc.	アメリカ
4 PNM Resources Inc.	アメリカ	公益事業	現金取引	5.7%	Avangrid Inc.	アメリカ
5 Activision Blizzard Inc.	アメリカ	コミュニケーション・サービス	現金取引	5.6%	Microsoft Corp.	アメリカ

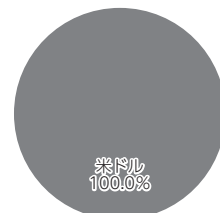
【組入案件の概要】

組入案件数	
現金取引	36
株式交換取引	3
現金取引および株式交換取引等	5
合計	44
買建て	126.1%
売建て	-20.9%

【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 当組入ファンドの概要は、管理事務代行会社のデータをもとに、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが計算しています。

(注) 組入比率は小数第2位を四捨五入しています。資産の状況によっては合計が100%にならない場合があります。

(注) 買建て/売建ておよび組入上位5ポジションの比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分の比率は、買建てポジションの合計評価額に対する割合です。

(注) 通貨別配分は、米ドル以外の通貨建て株式については、対米ドルで為替ヘッジを実施します。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

アライアンス・パースタイン・ファンドⅢ—マージャー・アービトラージ クラスS1J シェアーズ（為替ヘッジなし）

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

（2022年7月22日～2022年12月31日）

1万口当たりの費用明細に該当する情報を取得できないため、掲載しておりません。

以下は、「アライアンス・パースタイン・ファンドⅢ マージャー・アービトラージ」全体の内容です。

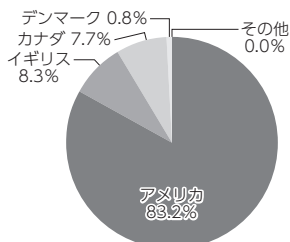
【組入上位5ポジション】

買収対象企業	国	セクター	支払方法	組入比率	買収元企業	国
1 Umpqua Holdings Corp.	アメリカ	金融	株式交換取引	5.9%	Columbia Banking System Inc.	アメリカ
2 Shaw Communications	カナダ	コミュニケーション・サービス	現金取引	5.8%	Rogers Communications	カナダ
3 VMware Inc.	アメリカ	情報技術	現金取引および株式交換取引	5.7%	Broadcom Inc.	アメリカ
4 PNM Resources Inc.	アメリカ	公益事業	現金取引	5.7%	Avangrid Inc.	アメリカ
5 Activision Blizzard Inc.	アメリカ	コミュニケーション・サービス	現金取引	5.6%	Microsoft Corp.	アメリカ

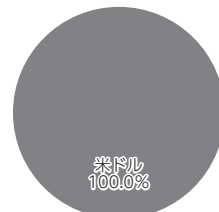
【組入案件の概要】

組入案件数	
現金取引	36
株式交換取引	3
現金取引および株式交換取引等	5
合計	44
買建て	126.1%
売建て	-20.9%

【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 当組入ファンドの概要は、管理事務代行会社のデータをもとに、アライアンス・パースタイン・エル・ピーが計算しています。

(注) 組入比率は小数第2位を四捨五入しています。資産の状況によっては合計が100%にならない場合があります。

(注) 買建て/売建ておよび組入上位5ポジションの比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分の比率は、買建てポジションの合計評価額に対する割合です。

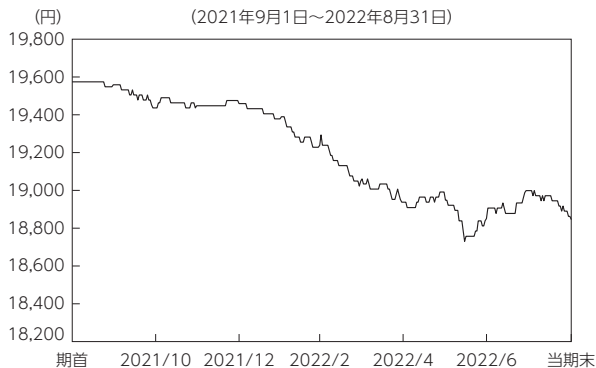
(注) 通貨別配分は、米ドル以外の通貨建て株式については、対米ドルで為替ヘッジを実施します。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

アライアンス・バーンスタイン・ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ クラスS1 2シェアーズ (米ドル建て)

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2021年9月1日～2022年8月31日)

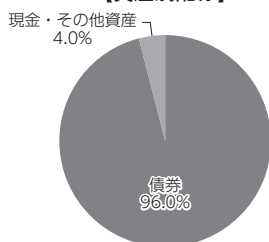
1万口当たりの費用明細に該当する情報を取得できないため、掲載しておりません。

以下は「アライアンス・バーンスタイン・ショート・デュレーション・ボンド・ポートフォリオ」全体の直近の決算日(2022年8月31日)現在の内容です。

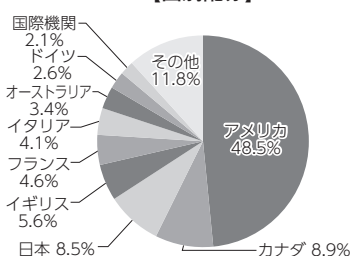
【組入上位10銘柄】

	銘柄名	通貨	国(地域)	比率%
1	米国国債 7.500% 11/15/24	米ドル	アメリカ	9.1
2	米国国債 7.625% 02/15/25	米ドル	アメリカ	7.0
3	米国国債 7.125% 02/15/23	米ドル	アメリカ	6.5
4	日本国債 1.900% 12/20/23	円	日本	4.8
5	米国インフレ連動債 0.125% 07/15/24 - 10/15/26	米ドル	アメリカ	4.0
6	米国国債 2.875% 11/30/23	米ドル	アメリカ	3.7
7	イタリア国債 5.000% 03/01/25	ユーロ	イタリア	3.4
8	カナダ国債 8.000% 06/01/23	カナダドル	カナダ	2.8
9	ニュージーランド国債 2.750% 04/15/25	ニュージーランドドル	ニュージーランド	1.7
10	日本国債 1.900% 09/20/23	円	日本	1.5
組入銘柄数			206銘柄	

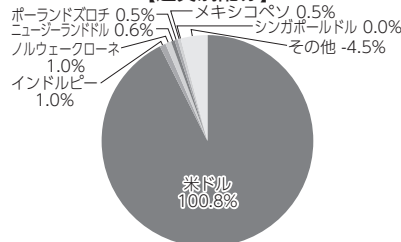
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 当組入ファンドの概要は、管理事務代行会社のデータをもとに、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが計算しています。

(注) 組入比率は小数第2位を四捨五入しています。資産の状況によっては合計が100%にならない場合があります。

(注) 国別配分、組入上位10銘柄は、組入証券評価額(除く現金等)を100%として計算しています。

(注) 資産別配分、通貨別配分の比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分は、発行体の国籍や事業基盤等を考慮して区分しています。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○TOPIX（東証株価指数、配当込み）

TOPIX（東証株価指数、配当込み）は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社が算出し公表する、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。